

# バイオトイレ・国際事業・まちづくり講座開講等新規事業の展開により NPO 法人・グラウンドワーク三島が職員募集！副業者歓迎

グラウンドワーク三島は、静岡県三島市に拠点を置く環境NPOであり、1992年より31年間にわたり、先進的な環境改善活動に取り組んできました。

合言葉は「議論よりアクション」「右手にスコップ・左手に缶ビール」です。

現在、水辺再生から始まった活動は、環境再生から地域再生、そして、農業再生、NPOビジネスへと拡大し、イギリスやネパール、台湾、韓国、アメリカ等との国際的な環境事業・支援事業・交流事業などへと拡大しています。

また、グラウンドワーク三島の多様な実践現場を教材として活用し、NPO・社会的企業を支える人材教育や起業家育成の事業にも取り組んでいます。実践地は70箇所以上にも広がり、汚れていた源兵衛川をホテルが乱舞する水辺に再生、貴重な河畔林が広がる松毛川での千年の森づくり、子どもたちへの環境教育、被災地支援、富士山での湧水池保全、耕作放棄地を活用した農業事業など、NPOの発展的・社会的な役割に挑戦しています。

**今回、SDGs対応の新規事業であるバイオトイレやネパールでの環境対策事業、現場力・実践力を学ぶ体験型まちづくり講座の開講、耕作放棄地を活用した農業事業等に取り組むための「職員募集」を行うことにしました。副業での就業も歓迎です。**

日本のNPOの新たな可能性・発展性に飽くなき挑戦を続けている本会で働きながら、自分自身の能力の可能性と潜在力を研鑽・発見し、さらなる「スキルアップ・キャリアアップ」を図りませんか。皆様のご応募を、お待ちしております。

NPO 法人 グラウンドワーク三島専務理事 渡辺豊博

## 1. 募集人数

**1名募集(正規職員・副業者・アルバイト・雇用期間限定臨時職員含む)**

## 2. 業務概要(その方の希望、特性、資格、経験知などを踏まえて下記の担当業務を決定)

- ・グラウンドワーク三島の地域活動全般(現場・関係機関調整、事務処理等)
- ・バイオトイレの販売拡大、ネパールなど海外での事業展開
- ・現場力、実践力を学ぶための体験型のインターンシップ、まちづくり講座の開講業務
- ・耕作放棄地を活用した銘柄米販売や施設栽培、箱根野菜、地酒づくりなどの農業事業

## 3. こんな方を歓迎します

- ・多様な人々と接することに抵抗がなく、コミュニケーションをすることが好きな方
- ・環境再生、地域再生、農業再生、NPOビジネス、社会的企業などに興味のある方
- ・NPOやNGO、ボランティア活動などに興味と経験知のある方
- ・国際協力、農業支援、環境再生、貧困対策、日本語教育など海外支援活動をしたい方

#### 4. 勤務地

静岡県三島市芝本町6-2 【交通手段】JR三島駅南口より徒歩10分

#### 5. 勤務時間・雇用期間

9:00~18:00 (実労働時間8時間)

基本的には、2024年4月1日から雇用(雇用期間については要相談)

#### 6. 待遇

- ・試用期間(3ヶ月間)後の月給 18万円~28万円(年齢や経験を考慮の上決定します。)
- ・社保完、交通費支給、住宅手当有
- ・副業の方については、ご相談の上で待遇などを決定させていただきます。
- ・アルバイトや雇用期間限定の臨時職員も募集。業務内容や待遇、勤務時間等は要相談

#### 7. 休日・休暇

- ・変形労働制/週2日休(交代制)、夏季休暇、年末年始休暇あり
- ・週末にイベント・活動等を行う場合があり、臨機応変な勤務体制にご理解のある方を歓迎します。

#### 8. 選考プロセス

応募(写真添付の履歴書と職務経歴書を郵送。まずは応募意向を事務局に電話ください。)

▼  
書類選考(結果は郵送かメールでお知らせします。)

▼  
面接(三島で実施します。交通費は自己負担でお願いします。)

▼  
採用(合否は決定後、電話か郵送・メールでお知らせします。)

#### 9. 応募期間

随時募集(共に魅力的で素敵なまちづくりに挑戦していきましょう。)



グラウンドワーク三島事務所



富士山頂にバイオトイレ設置



清流がよみがえった源兵衛川

問合せ  
応募書類  
郵送先

特定非営利活動法人グラウンドワーク三島(担当:美和・山下)

〒411-0857 静岡県三島市芝本町6-2

電話: 055-983-0136 FAX: 055-973-0022

E-mail: info@gwmishima.jp URL: <http://www.gwmishima.jp>



～指導者・専務理事のプロフィール～



**渡辺 豊博**（元都留文科大学教授・農学博士・ミスターグラウンドワーク・愛称ジャンボ渡辺）  
 1950年生まれ。東京農工大学農学部卒業。静岡県庁職員を経て、2008年4月より都留文科大学文学部社会学科教授。2015年から2020年まで都留文科大学特任教授。1992年、故郷・三島市の水辺環境改善を目的として、市民・NPO・行政・企業がパートナーシップを組む、英国で始まったグラウンドワーク（環境改善活動）を日本で最初に三島に導入、NPO法人グラウンドワーク三島を立ち上げ、現在、専務理事を務める。NPOトップランナーとして全国各地・台湾・ネパールなどのNPOを指導・助言。源兵衛川の親水公園整備により土木学会デザイン賞受賞、他31年の間に30の国内外の大賞を受賞。「議論よりアクション」が信条。



～グラウンドワーク三島の多様な活動～



源兵衛川での草刈り



松毛川での植林



環境教育

～グラウンドワーク三島の実績・成果～



昔の源兵衛川（1950年代）



ドブ川と化した源兵衛川（1980年代）



清流がよみがえった源兵衛川



松毛川右岸の荒廃した河畔林



放置竹林伐採作業



再生した河畔林（ご神木現る）

## ～NPO法人グラウンドワーク三島の概要と先進性～

### 1. グラウンドワーク三島とは

静岡県三島市は、富士山からの湧水が清流となり街中を網の目のように流れる「水の都」でした。しかし、1960年代、上流地域の産業活動の活発化にともなう地下水の汲み上げにより、市内を流れる川は水量減少で淀み汚れ、ドブ川になってしまいました。このふるさとの環境悪化に危機感を持った熱き人々と8団体は、「水の都・三島」の原風景・原体験の再生を目指し、1992年9月に「グラウンドワーク三島」をスタートさせました。

グラウンドワークは、英国発祥の市民・NPO・行政・企業のパートナーシップによる環境改善活動であり、グラウンドワーク三島が全国に先駆け導入し、「地域協働」を実現するための実効性の高い処方箋として活用してきました。

現在までに、ドブ川化した源兵衛川の水辺再生、絶滅した水中花・三島梅花藻（ミシマバイカモ）の復活、松毛川周辺の貴重な河畔林の保護活動、歴史的井戸や水神さん・お祭りの再生、ホタルの里づくり、学校ピオトープの建設、住民主体による公共施設の計画づくりと維持管理等、70カ所以上のプロジェクトを実践してきました。1999年10月には特定非営利活動法人の認

証を受け、現在では、20の市民団体が参加した「ネットワーク組織」になっています。

これら水辺環境の再生から始まった活動は、環境再生から地域再生へと拡大し、毎年約1,500人・約100団体が国内外から視察に訪れています。近年では、地域の人的資源や環境資源を生かした「せせらぎシニア元気工房」の開設、遊休農地を活用したそば・小麦栽培などの「環境コミュニティ・ビジネス」の創出、エコツアーなどの観光振興、「三島街中カフェ」「ZEROGO-ME」「せせらぎ源兵衛」等の創業によるにぎわい再生、さらに、これらの先進的なノウハウを海外に普及する「国際環境交流事業」にも取り組んでいます。

2010～2012年度には、内閣府「地域社会雇用創造事業」及び「復興支援型地域社会雇用創造事業」の一環として、これら多様な実践現場を、先進的な現場モデルとして活用し、地域ビジネスやNPOマネジメントを学ぶ「グラウンドワーク・インターンシップ」事業に着手し、約200人の社会起業家の輩出と、約3,000人の社会的企業を担う人材育成を行っています。さらに東日本大震災以降、子どもとご家族の心のケアを目的とした「子どもを元気に富士山プロジェクト」を立ち上げ、継続的な支援活動も展開しています。

今後とも「右手にスコップ・左手に缶ビール」「走りながら考える」を合言葉に、「ミッション・アクション・パッション」を活動の心根に秘め、地域から日本の元気再生の規範になれるよう戦略的で地道な市民活動に挑戦していきます。

### 2. 受賞・選定歴

グラウンドワーク三島は、これまで多くの賞を受賞しています。



共同通信社・加盟地方新聞46紙による  
第1回地域再生大賞「大賞」受賞（2009年）

#### 主な受賞歴

- 第37回手づくり郷土賞「一般部門受賞」  
「ベストプレゼン賞」（2022年）
- 第58回社会貢献者表彰（2022年）
- 第6回三島市景観賞「優秀賞」（2022年）
- 第9回プラチナ大賞「優秀賞」（2021年）
- 第21回中部の未来創造大賞「大賞」（2021年）
- 「アジア都市景観賞」（2020年）
- 第4回インフラメンテナンス大賞「優秀賞」（2020年）
- 第37回緑の都市賞「都市緑化機構会長賞」（2017年）
- 第18回日本水大賞「環境大臣賞」（2016年）

グラウンドワーク三島が関わっている実践地などのうち、選定されたものには、以下のようなものがあります。

#### 主な選定歴

- 「世界水遺産」：パートナーシップによる「源兵衛川」の管理・再生システム（2018年）
- 「世界かんがい施設遺産」：源兵衛川（2016年）
- 「プロジェクト未来遺産」：ドブ川化した川を市民力を結集して蛸が乱舞する清流に再生・復活（源兵衛川）（2013年）
- 「農村計画優良事例顕彰」：英国発祥のグラウンドワーク活動の日本における実践と普及（2013年）

### 3. 情報

- ホームページ：<http://www.gwmishima.jp>
- Facebook：<https://www.facebook.com/gwmishima.jp/>
- Instagram：gwmishima で検索

～グラウンドワーク三島の先進的なプロジェクト実践地紹介～

実践地	キーワード	概要
げんべろがわ 源兵衛川	環境再生 住民参加 環境教育	<p>市民・企業・行政のパートナーシップを仲介して、「水の都・三島」のシンボルである源兵衛川を再生しました。グラウンドワーク三島設立の契機となった事業です。</p> <p>(蛍が舞う清流が蘇りました。)</p>
かみなりいど 雷井戸	地域資源再生	<p>簡易水道の水源地としての役目を終え放置されていた井戸を、泉トラスト運動により買収し、住民や企業との協働により整備・維持管理を行いました。2013年1月、三島市に寄贈させていただきました。</p> <p>(1年を通して湧水が自噴している市内最大級の井戸です。)</p>
みしまばいなかち 三島梅花藻の里	環境資源再生	<p>湧水の減少と水質悪化により、いったんは市内の川から姿を消した水中花・ミシマバイカモを移植・育成し、原風景の再生を進めています。</p> <p>(日韓バイカモ交流も進んでいます。)</p>
きかいがわ 境川・清任緑地	多自然型水路 住民参加	<p>自然観察会や住民参加のワークショップを開催し、地域住民の意見やアイデアを集約した湧水公園を整備しました。地域固有の生態系を調査保育移植するミチゲーション工法による川づくりを住民参加で実現しました。</p> <p>(水柱のある湧水公園に再生しました。)</p>
みどり野 ふれあいの園	住民参加 手づくり公園	<p>三島市の遊休地を、地域のふれあいの場に整備しました。地元企業や行政から支援を得ながら、地域住民が主体となって手作りした公園です。</p> <p>(富士山のビューポイントでもあります。)</p>
まつげがわ 松毛川	環境再生 住民参加 環境教育	<p>松毛川には生態系豊かな河畔林がありましたが、近隣の開発による水質悪化などにより荒廃が進んでいました。松毛川千年の森として、竹の伐採や植林活動を20年にわたり続け「ふるさとの森」を再生しました。</p> <p>(沼津市大平中学生により植林が進められています。)</p>
かがみいけ 鏡池ミニ公園	環境資源再生	<p>かつては、湧水池であり、三嶋大社に参拝する人々が姿を映し、身を清めた歴史的遺産です。町内会や地元企業との協働により再生しました。</p> <p>(地域住民と有志の手により美しく整備されています。)</p>
たいばさとやま 大場里山	環境再生 地域資源再生	<p>三島南高校の東側に位置する、貴重な里山環境を今に残す「ふるさとの森」です。行政や企業との協働により、ピオトープや里山の環境整備を進めています。</p> <p>(山頂には鎮火・防火の神様である石祠が祀られています。)</p>
よるいざかこうえん 鏡坂公園	環境再生 住民参加	<p>雑草が生い茂っていた約42坪の空き地を、子ども会をはじめ多くの住民グループの一斉作業でポケットパークに整備しました。</p> <p>(憩いの場として地域住民による維持管理が行われています。)</p>
こしきりふどうそんいど 腰切不動尊・井戸	地域資源再生 住民参加	<p>江戸時代に近くの御殿川に流れ着いた腰から上だけの石仏をまつたと言われている。放置されていた腰切井戸を再生し、途絶えていたお祭りを住民や大学生とともに40年ぶりに復活させました。</p> <p>(毎年5月の大祭は多くの人で賑わいます。)</p>